

あれんじの屋根

施設長より

この人たちと関わる・支援する際に一番大切な資質とは何だろう

先月末、しょうぶの里で7年間、パートで支援業務をしていた職員が退職をするのでお別れ会がありました。

その人は、60歳を過ぎてしょうぶの里に来て、それまで障がい福祉に関してはまったくの未経験のことでしたが、穏やかで温かい人柄でした。多くの利用者さんにとってちょうどお母さんやお姉さんくらいの年齢だったこともあるのか、利用者さんから慕われた方でした。一連のお別れのセレモニーが終わったあと、入所・通所を問わず、たくさんの利用者さんが別れを惜しみ、次々に握手やハグ、記念撮影などをして、中には、涙ながらにお別れを惜しむ利用者さんの姿も見られました。

その光景に、私も胸が熱くなるとともに、この人たちと関わる・支援する際に一番大切、最優先される資質とは何だろうかと、改めて考えさせられました。さまざまな資質がある中で、私は、やはり“温かみのある人がら”と答えるだろうと思います。2番目は、この人たちのことを大切に思えること。専門性や知識は、その次くらいかなと。

なので、“この人と一緒にいたい”、“一緒にいたらうれしい”と利用者さんが思えるような職員が、一番、優れた職員だろうなど。もちろん、利用者さんたちと関わるのが上手な人とそうでない人はいるでしょうが、この人たちのありのままの姿を認めて受け入れられる、そういう職員であれば、利用者さんたちも“一緒にいたい”、“一緒にいたらうれしい”と思ってくれることでしょう。

書き遊ぶ



以前は夏になると庭の木々から頭が痛くなるほどセミが鳴いていましたが、改築時に木をバッサリ切ったので、翌年はそれは静かな夏でした。かわいそうなことをしたと思っていましたが、その後隣近所から聞こえるようになり安心しました。

「みいんみんみん」と鳴くのはミンミンゼミ。「かなかな」と鳴くのはヒグラシで、夜明けや日暮れに鳴くので秋の季語になっています。「ちーーーー」と鳴くのはニイニイゼミ。「つくつくおーし」と鳴くのはツクツクボウシで夏の終わりを告げる風物詩。「じ

ところで、小・中学校などの学校教育の現場で、障がいのある人との人が、学習活動や学校行事などを共にする「交流及び共同学習」が重視され、障害者基本法その他にも明記されています。人生の早い時期に、同じ時代を共に生きる者どうしが直接ふれあい、お互いを認め合うことが双方の成長にとってとても重要だからです。特別支援学校や特別支援教育に携わる教師の中には、この教育を志した理由としてそのような直接的な出会いがきっかけだった人もたくさんいます。

一方、今回の職員のように、人生の後半で、この人たちと出会った人たちも、多少の違いはあったとしても、同じような感慨を抱いているのではないかと思います。例えば、勤務が終わって帰ろうとするとき、利用者さんから「車に気をつけてね」「明日もよろしく」といった、温かい言葉をかけていただく。多くの人生経験を積み、人の言葉の表も裏も知っているだけに、まったく打算や屈託もなく人と関わり話をするこの人たちの素の温かみが、なおいっそう心にしみて得がたいものと感じられるのではないかなど。

これがこの世界の一番の魅力であり、前述の職員も、しょうぶの里を離れるこの淋しさとともに、この人たちの温かさに触れる機会がなくなることの淋しさも感じているのではないかと思ったところです。



「セミの声」

ゆうゆう会会長の瀬上です。4回目ワクチン接種しました。医師の話ではパンデミックは3年半、ワクチンは5回必要だそうです。まだまだ先は長そうですね。



りじりじり」と暑そうな声で鳴くのはアブラゼミ。「わしわしわし」とやかましく鳴くのは大型のクマゼミです。

地球温暖化によりその生態に変化があるのではと思いますが、セミの場合は数年の長い土中生活で貯めてきた熱の合計量で生まれてくるので、すぐ影響を受けることはないらしいです。

それにしても今年の夏は・・・暑い！！



や秋の名月について

《毎年、十五夜の日にちが変わるのはなぜ?》

もともと、十五夜は旧暦の8月15日とされていました。新暦で表すと月遅れの9月15日を十五夜と思う方も多いですが、実はその年によって十五夜の日にちは変わっています。

月の満ち欠けを基準にしていた旧暦と、太陽の動きを基準にしている新暦では一年の始まる日も長さも異なり、そのため旧暦と新暦にズレが生じ、実際には毎年9月中旬～10月上旬の間に十五夜がくるとされています。ちなみに今年は9月10日です。

《中秋の名月?仲秋の名月? 違いはなへに?》

旧暦では7月、8月、9月を秋の季節とし、7月を初秋、8月を中秋、9月を晚秋と定めていました。よって

『仲秋の名月』は『8月の名月』という意味になります。

一方、中秋とは秋のちょうど真ん中の日（旧暦8月15日）のこと。そのため十五夜は『中秋の名月』と書くことが多いのです。

《お月見の風習とお供えもの》

【ススキ】

秋の七草のひとつであるススキには悪霊や災いなどから収穫物を守り、翌年の豊作を願う意味が込められています。

【お団子（月見団子）】

月に見立てたお団子をお供えすることで、月に収穫の感謝を表します。十五夜では15個、十三夜では13個をピラミッドのように積んでお供えします。

【農作物（里芋・栗）】

お月見は豊作を祝う行事でもあります。里芋、栗、枝豆など、収穫されたばかりの農作物をお供えし、収穫に感謝します。

【お月見泥棒】

お月見泥棒とは、近所の子ども達がお月見のお供えものを盗む風習のこと。「お月様が月見団子を食べてくれた」と考え、子どもの盗み食いが歓迎されるのです。

給食室より



- 9月 7日 誕生会
- 9月 8日 お月見会
- 9月 13日 リクエストメニュー(昼食)
- 9月 22日 リクエストメニュー(昼食)

9月が旬の＜里芋＞

里芋は9月から旬の時期を迎えます。

里芋のぬめりはガラクタンという食物繊維です。ガラクタンには腸の働きを活発にし、血糖値やコレステロール値の上昇を抑制する効果があります。

でんぶん質の多い里芋ですが、芋の中でも水分が多いためカロリーが低めです。

管理栄養士 厚地

《9月の行事予定》

- ☆ 1日(木) 訪問歯科
- ☆ 2日(金) コロナワクチン4回目接種(利用者)
- ☆ 5日(月) 職員会議、給食委員会
- ☆ 7日(水) 誕生会
- ☆ 8日(木) 訪問歯科、お月見会
- ☆ 10日(土) コロナワクチン4回目接種(職員)
- ☆ 15日(木) 訪問歯科
- ☆ 20日(火) 研修会
- ☆ 22日(木) 訪問歯科

*予定ですので変更になることがあります。ご了承ください。

《お月見の風習とお供えもの》

【ススキ】

秋の七草のひとつであるススキには悪霊や災いなどから収穫物を守り、翌年の豊作を願う意味が込められています。

【お団子（月見団子）】

月に見立てたお団子をお供えすることで、月に収穫の感謝を表します。十五夜では15個、十三夜では13個をピラミッドのように積んでお供えします。

【農作物（里芋・栗）】

お月見は豊作を祝う行事でもあります。里芋、栗、枝豆など、収穫されたばかりの農作物をお供えし、収穫に感謝します。

【お月見泥棒】

お月見泥棒とは、近所の子ども達がお月見のお供えものを盗む風習のこと。「お月様が月見団子を食べてくれた」と考え、子どもの盗み食いが歓迎されるのです。

医務室より

家庭でできるコロナウイルス感染対策

《家庭を守る》

- ・日中はできるだけ換気をしましょう。(クーラーはつけたままでOKです。)
- ・毎朝の体温測定、健康チェックをしましょう。
- ・家の中でもできるだけ家族全員がマスクを掛けましょう。
- ・こまめのうがい、手洗い、手指消毒をしましょう。
- ・タオル類、歯磨き粉の共有はやめましょう。(特にトイレにはタオルを置かずペーパータオル等を使いましょう。)
- ・食事等の盛り付けに大皿は使わないようにしましょう。
- ・ゴミは密閉して捨てましょう。
- ・トイレ使用後水を流すときは便器のフタは閉いましょう。

《こまめに消毒》

- ・取っ手、ドアノブ、照明のスイッチ等はアルコールや薄めた市販の塩素系漂白剤(ハイター)で一日一回以上は拭きましょう。
- ・トイレ、浴室、洗面所は通常の各々の洗剤で洗い、消毒をして換気を行いましょう

《消毒用ハイターの作り方》

500mlのペットボトルを使用した場合・・・

ペットボトルのキャップ一杯のハイターを入れ、水を満タンに入れ、よく混ぜると出来上がりです。

※※※皆様が元気に過ごせるように祈っております※※※

看護師 武田

～編集後記～

とうとう我が家にもコロナ感染者が。。。私は濃厚接触者となり、7日間の(ちょうどこの里では濃厚接触者は命のために7日間)自宅待機になりました。家中の消毒、近くに住む妹に使い捨て食器、手袋、消毒液等の調達を依頼、同居する高齢の母の避難等々…

どうにか家庭内感染は阻止し、私も8日目には職場復帰できました。いやあ~気を使い、金を使い、ストレスだけ貯まりました(^^;)。

～～第64号～～

令和4年8月25日発行

発行元 しょうぶの里

熊本市西区小島9丁目14-58

TEL (096) 311-4588

